

我が國幼稚園の歴史

下田 田鶴子

今日此の御會合に加へて下さいました事は誠に光榮と喜びに堪へません。

かねて我が國幼稚園の歴史に關する事項といふ事を話してとの仰せでございました、もとより薄學非才の私とて御志に副ふことは出來ないと存じましたが、長く關係をいたしました幼稚園、又御會の事でも御座いますので御懐しく又皆様にお目にかゝつて御高話をも承り、いさゝか責をふさぐつもりで伺ひました次第で御座います。

そも〱私が教育界に身を投じましたのは明治十八年七月の事で御座いました。その頃はや幼稚園の呼び聲は可なり高くなつてをりました。私も不肖ながら其の研究に従事したいと存じまして、大阪市の幼稚園に奉職致しましたが當時大阪が最も幼稚園について熱心な所と申されて居りました。其の後此の附屬幼稚園に移りましたので御座いまして自然その間の事實を申上げるやうになりました。

文部省の統計によりまして此の明治十八年が幼稚園の一大進歩の曙光を認めました時と存じます。

先年開かれました幼稚園關係者大會の席上で、時の普通學務局長田所氏が御話のうちに明治十七年に幼稚園に入ることを獎勵すると同時に學齡前の兒童は小學校に入るを得ずといふ通牒を出したので、翌十八年には幼稚園が三十も出來たと承りまして其のやうな事が御座いましたのかと初めて承知いたしました、その前明治十四年には僅七つしかなかつたさうで御座います。

現今は女子教育の勃興時代とても申されませうが、女子の高等教育などいふことも高くさげばれてをりませんが、幼稚園の創立年代を調べてみますと高等女學校よりは凡そ一昔も前の事で早くも明治八年九月に東京女子師範學校（今の東京女子高等師範學校）附屬幼稚園開設の布達がออกมาして、翌九年六月に保育の方法を定め、建築の意匠が成つて土木の工を起し、十一月に落成して開園したといふこととございませう。私は明治十四年頃から本校の生徒として毎日此の幼稚園を觀て居りました、悉く西洋式の屋根の平な建物で南に手すりのついた廊下をとつてこれに日除けでせう藤棚が掛つて前に見、かすむばかりの庭園をひかへ、そこに花壇が點々と配置されてをりまして咲き匂ふ花の間を袂をひるがへして、蝶のとぶやうに走り廻る幼兒を見てをりました、建物といひ周圍といひいかにも能く調和が取れてをりまして見るからに心地よく樂園とは斯様なものかと見て居りました。

明治十七年九月に大風雨が起りまして其のあたり建物庭園に大損害を與へ、平な屋根は吹きとばされて仕舞ひましたので、本校の一部に移つてをりましたが明治十九年三月に漸く新築が出來、四月に移轉

といふ事にて御座いました。それが大正十二年九月に震災にあつた建物で御座います。

内容に至りましては規則の改正も度々御座いまして、左の様に伺つて居ります。

明治十年六月規則を改正し幼児一人に付一ヶ月貳拾五錢の保育料を徴收す。

明治十三年二月保育料を倍加して金五十錢とす。

同年六月幼児保育に志ある者の爲幼稚園保育練習科を設く。

明治十三年七月大に本校規則を改革し幼稚園保育法を本科の課程に加へられたるを以て保母練習科を廢す。

明治十四年六月保育課程を改正して増減する所あり。

明治十七年二月規則を改正す。

明治十九年五月保育料を増加して金壹圓とす。

明治二十年七月保育料を増加して金壹圓五十錢とす。

明治二十三年二月規則を改正す。

明治二十四年三月規則を改正す。

明治二十五年九月附屬幼稚園分室を開く。

明治二十六年三月規則を改正す、同月保育料を減じて金壹圓とす。

この後も猶改正がございました。

組分け法に關しましては從來の標準は主として年齢でございましたが、明治二十六年四月に之を改めまして年長の一階を一組とし下二階を各二組に分ち都合五組とし、年齢によらず員數とか新舊幼兒の關係とかを考へ成るべく兄弟などは同じ組に編入し、最上の組になる迄終始同一の保姆が之を擔任するといふことにして試みました。

この組分け法の利害得失に就きましては、其の當時は利益の方が多いうように考へられましたが猶他日の研究を待つといふことになつてをりました。

その概要を述べて御參考に供しませうか。

利とする事項

- 一、保姆は幼兒の性質を熟知し得る事
- 一、保育法終始一徹して容易に其の効を擧ぐる事
- 一、幼兒は家庭に於けるが如く長幼相順ひ相助くるの感情を深くする事
- 一、一組の幼兒長幼新舊相混するときは保育すること益々困難なるべきも保姆は從來襲用せる小學校生徒を教授すると同様なる方法を改めて幼兒に適切なる保育法を研究するの心を勵まし保育法全體に利益を得べき事

一、方今教育上一般の弊たる皮相の教育を改めて眞誠の教育を施すに至る事即ち級別教授團體訓練を偏重するの弊を除きて人々個々の教訓を一層慮るの功を收むる事

一、終始同一の保姆にて幼児を保育するときは保姆其の人の習癖をも幼児に感染せしむるの恐あるを以て保姆は自己の品位を進め益々戒慎するの動機を得る事

不利となる事項

一、級別教育の利即ち保姆の勞力を省約し得ざる事

一、心身發育の度相等しき幼児を得ず保育上稍困難をます事

一、保姆其の人の習性偏癖を移して幼児に與ふる事

一、中途組を上ぐる制なきときは幾分か幼児獎勵法を失ふ事

一、幼児長幼相混ずるときは長者は其の能に安んじ幼者は徒に困難の作業を請求する事

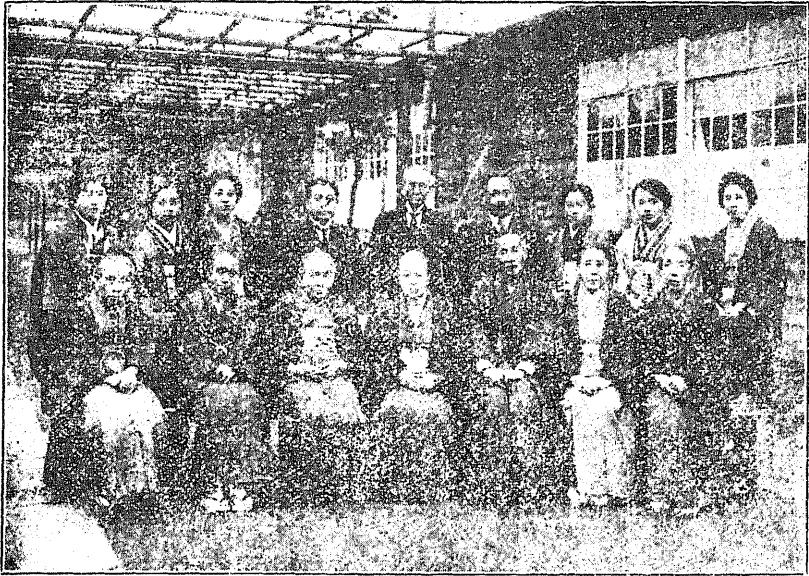
以 上

又明治三十年頃でしたか保育の効果を知ります爲め、男女それ／＼連絡のある學校の中學校卒業、高等女學校卒業の際の成績につき幼稚園に入園しませんでした者との比較を取て見ましたのに、凡そ三年間に渡りいつも男子は幼稚園に入園したものが優り、女子は之に反して却つて劣つた成績を見ました。その後は等の御調査もありましたと思ひますがいかゞでございましたやう。

今一つ前述の分室といふものについて申して見ませう、これは大に費用を節して保育の効果を収める方法を研究し、又これを模範としてどこにでも幼稚園を設置することの出來得るといふ希望をもつて開かれたものでございましたがやはり大會の時の田所氏のお話によりますと、明治十七年にこの種の幼稚園設置の通牒が文部省から出てをるとの事でございます。

この分室では幼児長幼うち混じて五十人迄を一組とし、保母は一人でこれに當るといふ仕組で普通より保育時間を長くし、天氣のよい時は成る可く外に遊ばせるやうにして手細工なども一層自然物の利用といふことを考へ紙細工などは保母が研究して紙を染めて使つてをりました、慈善といふわけではありませんでした。後年二部と改稱され小額の保育料を徴収するようになり模様も多分變化したやうに存じました。

この分室で最も困難を感じましたことは樂器なしに唱歌や遊戲をさせてみようといふ試みでございます。併し子供の事だと思つたよりは能くうたひました。保母の努力といふものは甚しいものでございました。今はどんな寒村僻地でもオルガン一つ位は備へられませうから何はなくとも樂器は必要だと存じます。これによりまして無駄な力を要しないばかりでなく、猶積極的に効果を擧げることが出來ませう。餘談になりますが其の頃保母として私共は互にピアノの稽古を勵んだものでございました。子供でも相當に高尚な音樂を聞き分ける能力はあると存じます。若し面白いマーチでも彈ませうなら子供はさ



幼 稚 園 懷 舊 談 話 會 來 賓

つと眼を見張つて演奏者を見、鼻を高くし得意になつて進行いたします。其の様を見ます愉快はたへようがございません。

扱また保姆養成といふ事に關して申しませうならば、東京女子師範學校附屬幼稚園に保姆練習科を置かれましたのは前述の明治十一年六月で、十三年七月に十一人の卒業者を出してをりす。尤もその前にも特志の者が參つて保育法を練習したといふ事でございます。

この十三年七月に本校の規則が改正されました、幼稚園保育法を本科の課程に加へられましたので保姆練習科は廢されたとのことは前述の通りでございます。

明治二十三年二月に東京女子師範學校が女子高等師範學校と改稱され規則も改まり、この卒業者が從

事しなければならぬ高等女學校が増加いたしましたので、卒業者は直接幼稚園に關係する事が出来なくなり、一方幼稚園も諸所に増設せられましたので、明治二十八九年の頃再び保姆練習科を置かれました主任保姆の養成にとめられました。それで明治三十年十月に十三人、同三十一年七月に八人、同三十四年十二月に十二人の卒業者を出してをります。その後保育實習科といふものを置かれまして三十九年十一月を始めとして多數の卒業者を出されました。

これより先きに東京府教育會におきましては保姆傳習所といふものをお設けになり、盛に保姆の養成にとめられ卒業者は市内各所の幼稚園に保姆として保育の効果を擧げてをりました。明治何年の頃でございましたか教育會がこの事業を廢されました時、會の役員で傳習所の主幹として、また一つ橋幼稚園の園主として熱心にしかも興味をもつて幼児教育に従事して居られました多田房之輔氏が獨力をもつて、其の傳習所をお引受けになり、一つ橋幼稚園内に私立の傳習所としておかれました。それで教育會で傳習所を再興する場合には何時でも引續くと申して居られますが果してその時が参りましてその通り實行され、又教育會の傳習所となつたと存じます。

猶大阪でも明治十八年頃にはや幼稚園に見習生といふものをおいて保姆養成の端緒を開いて居りました。

猶又本會の設立でございますが明治二十五年の頃の事でございますたらう、附屬幼稚園の人達うちよりまして何とかして市内の幼稚園の保姆方とも會合の機會をつくり互に研究を發表したり、一方には發展の道をも講じたいといふ事で他の二三の御方々とも御協議して保姆會といふものを設立いたしました。

た。其の後幼稚園関係の方々の御協力によりまして明治二十九年四月二十一日フレノベル先生の御誕生日にフレノベル會と名乗つて盛に生ぶ聲を挙げました、それで地方の會員をも募り會報を發行し時々集會をいたして研究につとめ、又大會を催して斯會に刺戟を與へ當局に建議などをもいたして居りましたが、それがこの日本幼稚園協會と改稱されたのでございます。

以上は私の知つて居りました幼稚園保姆養成所、幼稚園の會といふ事について申述べましたが今一つ附け加へまして昔の人が幼児を多く集めて教養された話を致してみたいと存じます。

孝謙天皇の女官に和氣廣虫といふ方がございました、清麿の姉様で後に法均尼といはれた方でございましたが、當時藤原仲麿の亂で社會が疲弊いたしましたして子を育てる事の出来ないものが多くなり、これを棄てたものがあつたので廣虫が人にいひつけてこれを拾つてあるかせ、その數が八十三人になつたといひますが皆を養子にして能く教育を、後に立派な人になつた者もあつたとの事です。

又雄略天皇の武將に小兒部螺羸チヨウベスガといふ方がございましたが、天皇から子を集めてこいと御命令がございましたので、諸國から凡そ百人も子供を集めまして御前に出ますと天皇が笑ひになりましたその子ではない、蠶の事であると仰せられ併し集めて來た子は能く育てよとの仰せでございました。螺羸は仰せをかしこみまして教養につとめました、その効績がよろしかつたので小兒部の姓を賜つたといふ事でございますが菊池容齋が前賢故實に繪でこれをあらはしまして五六才位の子を集めてデン／＼太鼓のやうなものを振て遊ばせて居る所を畫きました、丁度それは我國のフレノベル先生のやうに思はれますので聞いて居ました話を申上げて見ました。